

滋賀県民のみなさまからの声

# 滋賀医科大学 県民アンケート 調査の概要



海津大崎 桜



伊吹山冬景色



ヨットレース



湖東三山 金剛輪寺の紅葉



滋賀医科大学

平成23年3月

写真：(社)びわこビジターズビューロー



# 「滋賀医科大学県民アンケート調査の概要」(平成22年) の発行に際して

滋賀医科大学長 **馬場 忠雄**  
(ばんば ただお)



国立大学は平成16年度から国立大学法人として大学独自の裁量により運営することとなり、財政的には国からの教育・研究、診療、業務に対する基盤的経費をもとに授業料、病院収益や寄付金などの外部資金などにより運営し、一方、業務の効率化・簡素化を行って、大学本来の教育・研究・診療の質の向上に取り組んでいます。

滋賀医科大学は、昭和49年（1974年）開学以来、信頼される医療人の育成と研究や医療をとおして、地域医療はもとよりわが国の医療・福祉の向上に大きく貢献しています。

しかし、法人化を契機として、大学が立地している滋賀県民の方々が、大学がいかに関わり、どのような成果を上げているのか、また、どのような大学と関わっているのか、を知り、法人としての大学運営に生かすことを当時の吉川隆一学長が発案され、学内ワーキングチームにより調査方法、項目などが検討され、平成17年に実施されました。

県民の方々からいただいた貴重なご意見を大学運営に生かして、平成16年から21年の第一期中期目標・計画を着実に実施してきました。期間中の業務・財務、教育・研究、診療など法人運営全般にわたる評価結果は平成23年3月末に決定されることになっています（暫定評価では86の全国立大学法人中第2位でありました）。

平成22年度から、第二期中期目標・計画期間に入っており、第一回の県民アンケート調査後5年目になりますので、今回、再度ワーキングチーム（委員長 平 英美教授）を立ち上げ、前回と同様の調査方法と調査項目、さらに新たな項目を追加し、県民の方々にご協力をお願いしました。

調査結果から、本学には「信頼される良い医療人の育成」という本学本来の機能に大きな期待が寄せられていること、また、附属病院に対しては「地域医療への貢献」が第1回調査より高い評価を得ており、本学の取り組みが県民の皆様に評価されつつあると喜んでおります。

自由回答では、多くの励ましや期待、また改善点など、本学に対する熱い思いが書かれています。貴重なご意見を第二期の大学運営に生かし、皆様のご期待に沿うべく、本学の全構成員が一体となって努力いたします。

貴重なご意見とアンケートにご協力いただいた皆様に御礼を申し上げます。

# 目 次

県民アンケートの概要 .....	2
------------------	---

## 1. アンケートの集計結果

(1) 社会属性 .....	3
(2) 滋賀医科大学との関わり .....	5
(3) 滋賀医科大学に対するイメージ .....	5
(4) 現在の滋賀医科大学附属病院に対する評価 .....	5
(5) 地域での学生実習を知っているかどうか .....	6
(6) 滋賀医科大学の卒業生を知っているかどうか .....	6
(7) これからの滋賀医科大学に求めるもの .....	7
(8) 滋賀医科大学の将来像 .....	8
(9) 滋賀医科大学の今後についての関心 .....	8
(10) 滋賀医科大学の広報活動 .....	9
(11) 入院中の不在者投票について .....	9

## 2. 主な項目間の相関関連

(1) 居住地から見た特徴 .....	10
(2) 滋賀医科大学との関わりから見た特徴 .....	13
(3) 滋賀医科大学に対するイメージから見た特徴 .....	15

県民アンケートで出された主な自由回答 .....	17
--------------------------	----

まとめ .....	22
-----------	----

アンケートの結果を受けて .....	23
--------------------	----

## 県民アンケートの概要

1. 調査地域：滋賀県内全域
2. 対象者：県内に在住の20歳以上の3,000名
3. 調査時期：平成22年11月
4. 調査目的：本調査は、県民の皆様が、本学の運営や滋賀県の地域医療行政に対しどのようなお考えをお持ちかを知り、今後の本学の運営及び地域貢献の取り組みに活かしていくことを目的とする。  
平成17年に実施した第1回県民アンケートから5年が経過し、大学や医療を取り巻く情勢が大きく様変わりしていることから、第2回県民アンケート調査を実施する。
5. 対象者の抽出方法：県内19全市町から、人口比率により対象者3,000人を無作為に抽出
6. 調査方法：郵送による自記式無記名の調査票を用いたアンケート調査
7. 回収率：回答者（1,390人） 回収率（46.3%）  
参考  
第1回アンケート回収率 回答者（1,188人）  
回収率（39.6%）



# 1 アンケートの集計結果

## (1) 社会属性

### ①性 別（平成22年）

区 分	人 数	%
男	640	46.6
女	734	53.4
合 計	1,374	100.0

### ①性 別（平成17年）

区 分	人 数	%
男	569	48.3
女	608	51.7
合 計	1,177	100.0

第1回調査に比べ第2回調査の回答者数は200名程度多く、1,374名であった。第1回と同様に、第2回の調査でも女性が53.4%とやや多くなっている。

### ②年 齢（平成22年）

区 分	人 数	%
20～29歳	99	7.2
30～39歳	194	14.1
40～49歳	250	18.1
50～59歳	307	22.3
60～歳	529	38.3
合 計	1,379	100.00

### ②年 齢（平成17年）

区 分	人 数	%
20～29歳	65	5.5
30～39歳	181	15.3
40～49歳	255	21.5
50～59歳	384	32.5
60歳以上	298	25.2
計	1,183	100.0

第1回調査では、50歳代が最も多い結果であったが、第2回調査においても60歳以降の回答者が最も多くなっている。また、第2回はわずかであるが、20歳代の若年層の回答者が増加している。

### ③職 業（平成22年）

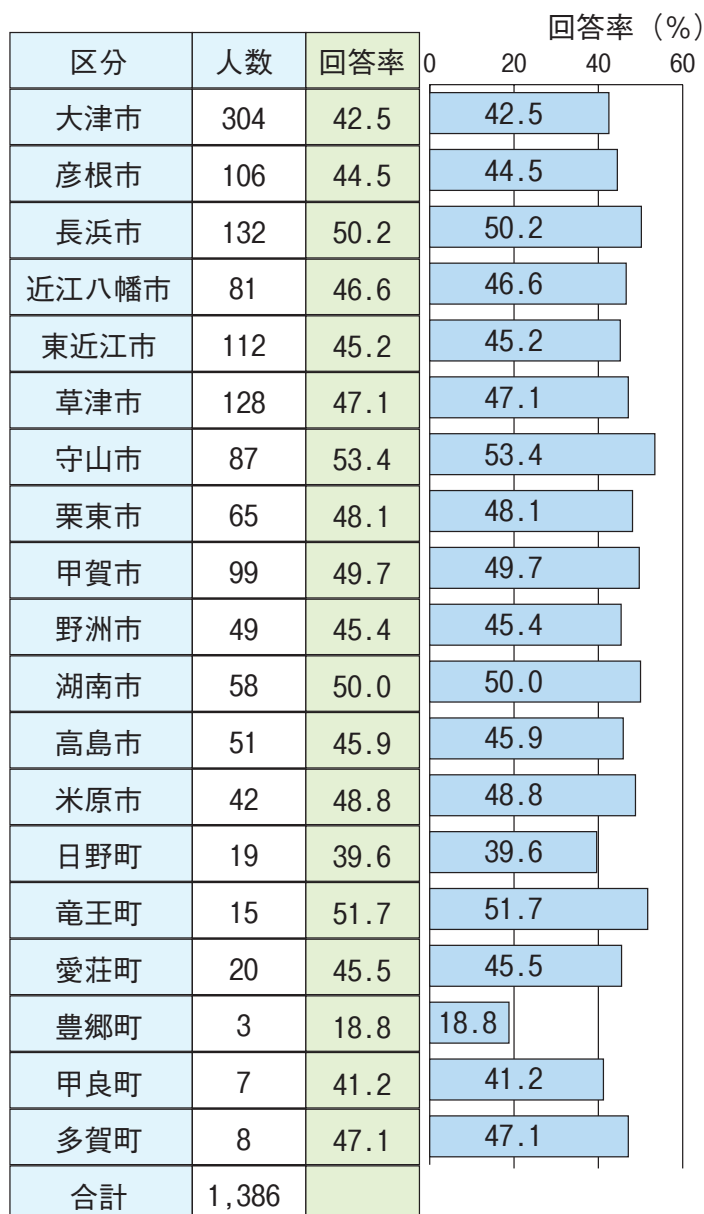
区 分	人 数	%
農 林 水 産 業	33	2.4
自 営 業	106	7.8
会社員・団体職員	374	27.5
公 務 員	84	6.2
パート・アルバイト	209	15.4
家 事 専 業	223	16.4
学 生	18	1.3
無 職	264	19.4
そ の 他	49	3.6
合 計	1,360	100.0

### ③職 業（平成17年）

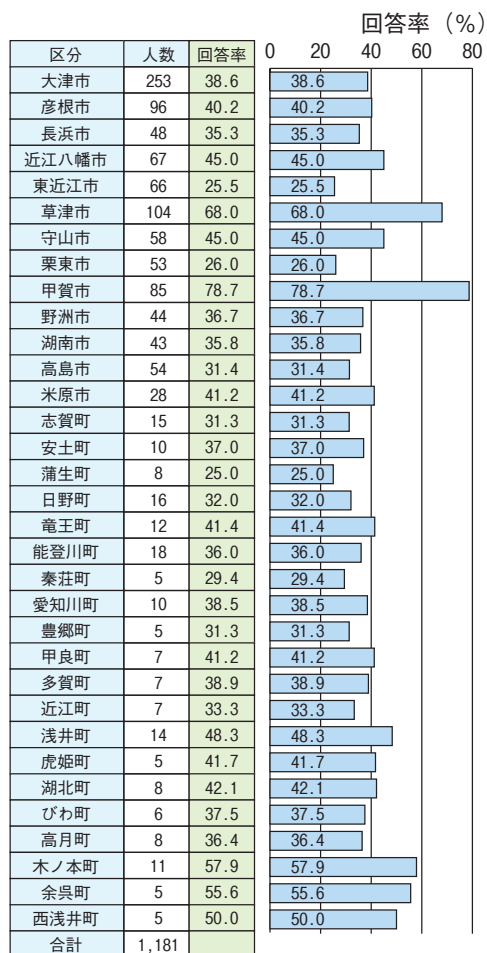
区 分	人 数	%
農 林 水 産 業	11	0.9
自 営 業	138	11.7
会社員・団体職員	385	32.7
公 務 員	103	8.8
パート・アルバイト	168	14.3
家 事 専 業	160	13.6
学 生	12	1.0
無 職	148	12.6
そ の 他	52	4.4
計	1,177	100.0

第1回、第2回ともに「会社員・団体職員」からの回答が最も多い。第1回に比べ無職の人の割合が高くなっている。

#### ④居住地（平成22年）



#### ④居住地（平成17年）



本学近隣の天津市、草津市のみならず県下全域から回答が寄せられている。第1回調査時には回答率にも多少のばらつきがあったが、第2回の調査では豊郷町を除き、ほぼどの市町からも40～50%台の回答を得ることができた。

#### ⑤居住年数（平成22年）

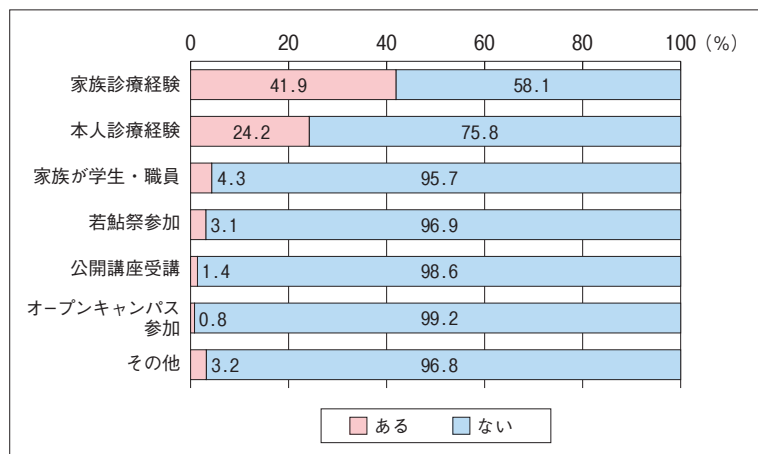
区 分	人 数	%
3年未満	23	1.7
3～10年	74	5.4
10～20年	140	10.1
20年以上	1,145	82.8
合 計	1,382	100.0

#### ⑤居住年数（平成17年）

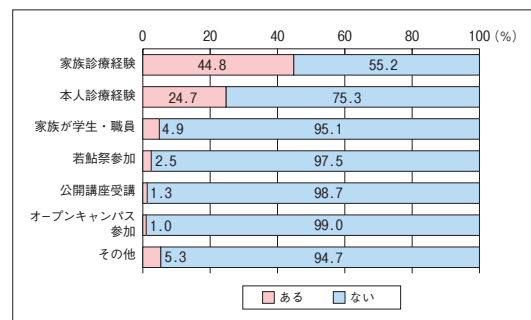
区 分	人 数	%
3年未満	19	1.6
3～10年	59	5.0
10～20年	109	9.2
20年以上	999	84.2
計	1,186	100.0

第1回調査同様、第2回調査でも「20年以上」と長期にわたり居住している人たちからの回答が多い。

## (2) 滋賀医科大学との関わり（平成22年）

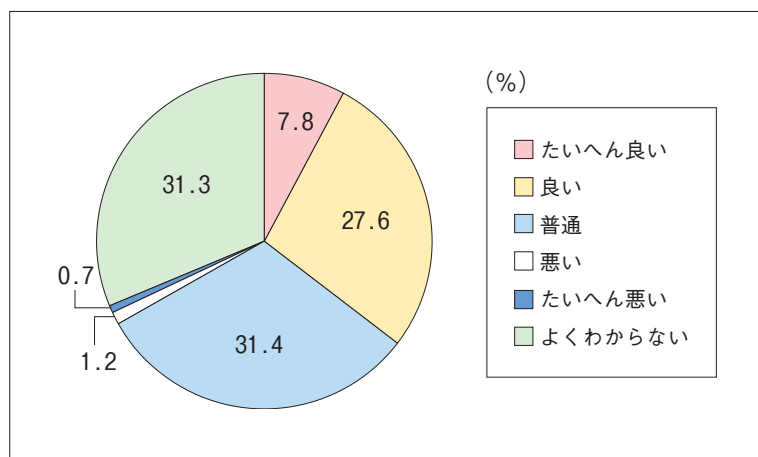


## (2) 滋賀医科大学との関わり（平成17年）

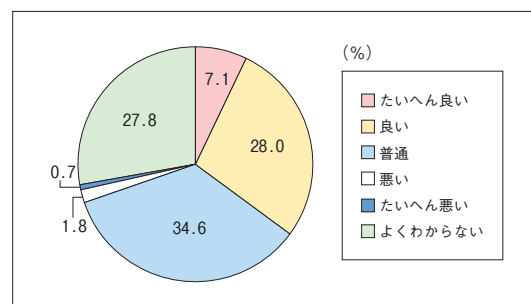


第1回調査同様、第2回調査でも「本人もしくは家族の受診経験がある」という点で本学との関わりがある人が最も多い。公開講座、若鮎祭への参加など、受診以外での関わりは第1回調査時の状況と変わりなく、多いとはいえない。

## (3) 滋賀医科大学に対するイメージ（平成22年）

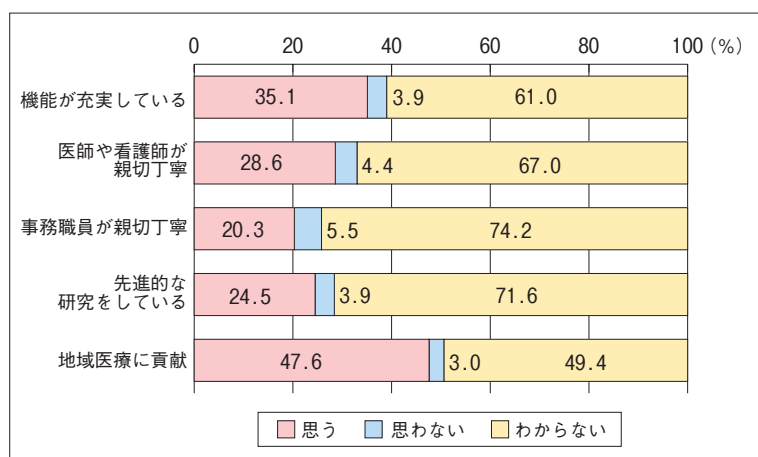


## (3) 滋賀医科大学に対するイメージ（平成17年）

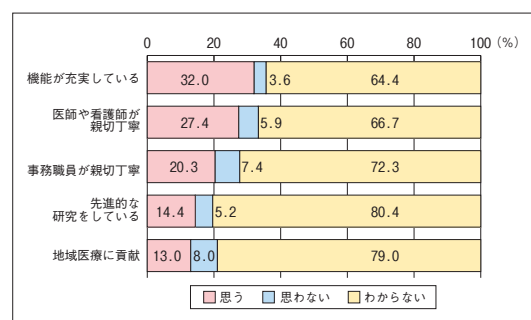


第2回の結果において「たいへん良い」「良い」を合わせると 35.4%であり、第1回の35.1%とほぼ同じ割合である。「よくわからない」と答えた人が31.3%で第1回の調査の27.8%を上回りを考えると、本学に馴染みの少ない人が依然として多いことがわかる。

## (4) 現在の滋賀医科大学附属病院に対する評価（平成22年）



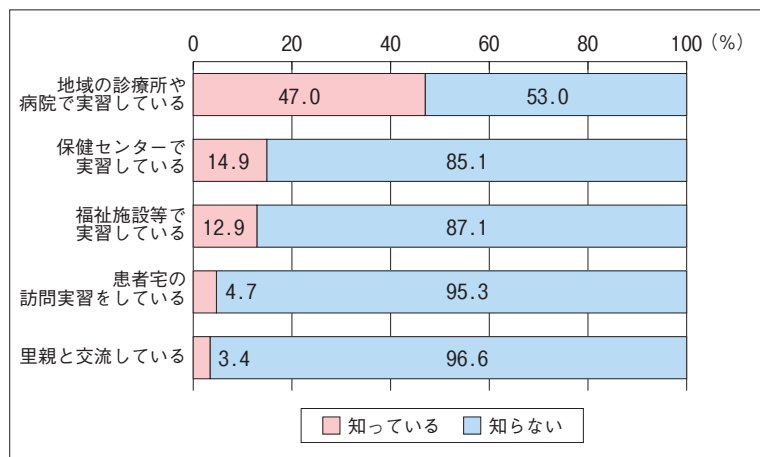
## (4) 現在の滋賀医科大学附属病院に対する評価（平成17年）



全項目とも「わからない」と回答している人が多い。また、第2回の調査では「病院機能の充実」「先進的な研究をしている」に対する肯定的評価の割合も第1回調査と比べ多少高くなっている。さらに、第1回調査で「地域に密着した活動」に対する肯定的評価が13.0%であったが、第2回調査では「地域医療に貢献」の項目で47.6%と半数近くの肯定的評価を得ているところに注目したい。もちろん、質問の仕方でも影響があると思うが、これは、本学が進めようとしている地域と連携した医療・教育についての理解が進んでいる結果であると考えられる。



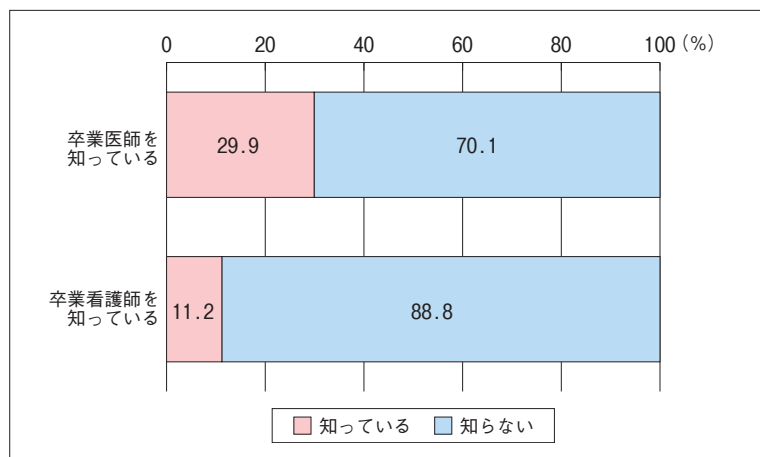
## (5) 地域での学生実習を知っているかどうか（平成22年）



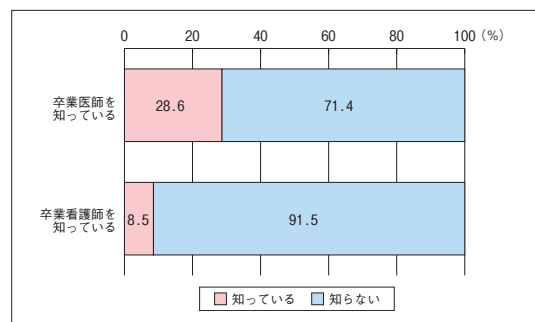
平成17年 設問無し

この質問は、第1回調査にはなかった、本学の学生の実習について県民にどれほど知られているのかを問うものである。地域の診療所や病院での実習については47.0%と半数近くの人が「知っている」と答えているが、保健センターや福祉施設等での実習について知っている人は少なく、訪問実習について知っている人はごく少数であった。また、本学が進めている里親交流についてもあまり知られていない。

## (6) 滋賀医科大学の卒業生を知っているかどうか（平成22年）

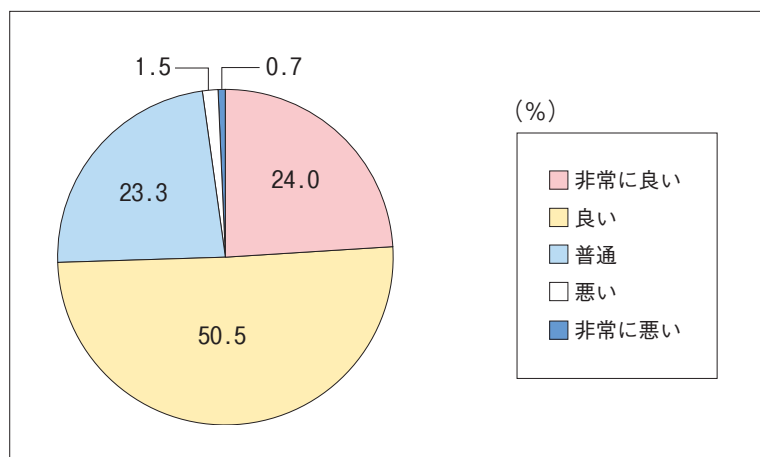


## (6) 滋賀医科大学の卒業生を知っているかどうか（平成17年）



第1回調査よりも医師及び看護師ともに「知っている」と答えている人がやや多くなっている。

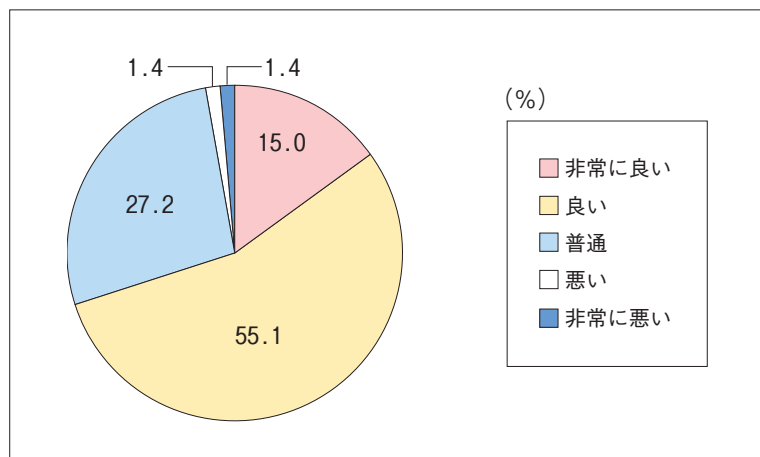
## ① 知っている卒業生（医師）のイメージ（平成22年）



平成17年 設問無し

本学卒業医師のイメージについて「非常に良い」「良い」と答えた人を合わせると74.5%にのぼり、かなり高い評価を得ている。「悪い」「非常に悪い」という否定的な評価は合わせて2.2%とかなり少ない。

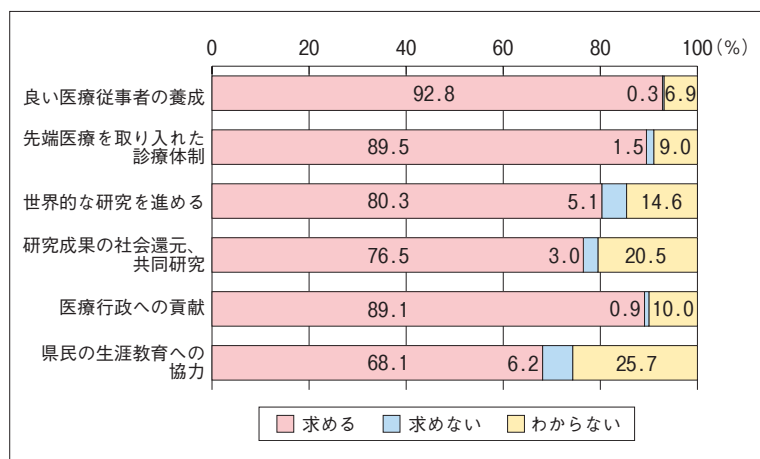
## ②知っている卒業生（看護師等）のイメージ（平成22年）



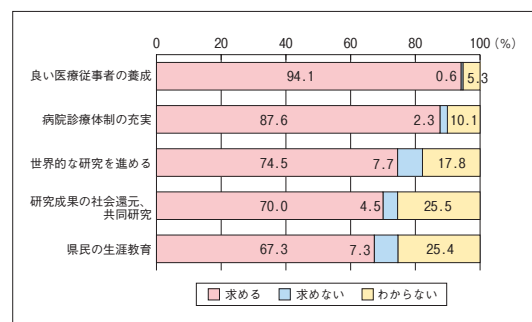
平成17年 設問無し

本学卒業看護師についても、「非常に良い」「良い」を合わせると70.1%で、高い評価を得ている。「非常に悪い」「悪い」という否定的評価は2.8%でごく少数といえる。

## (7) これからの滋賀医科大学に求めるもの（平成22年）

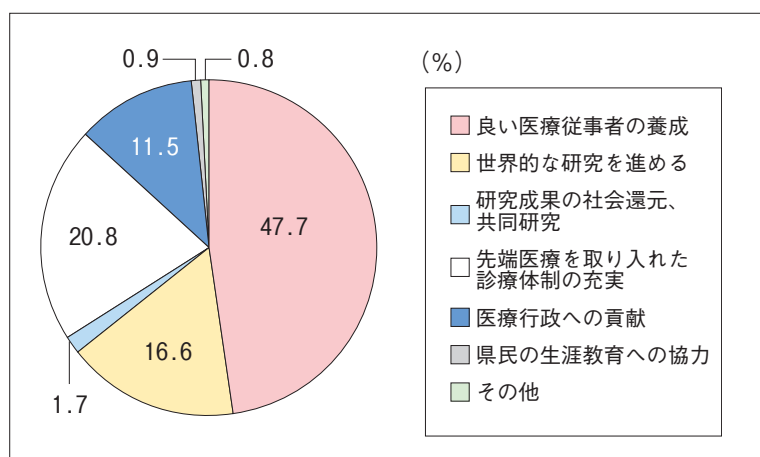


## (7) これからの滋賀医科大学に求めるもの（平成17年）

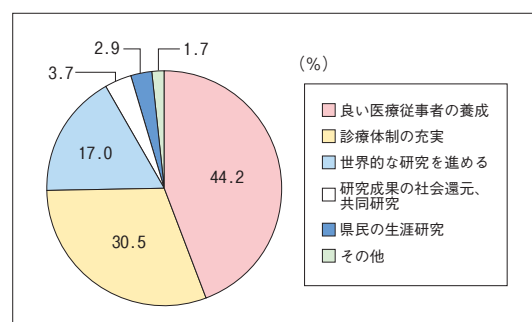


第1回調査同様、本学に対して多くの期待が寄せられていることがわかる。なかでも「良い医療従事者の養成」は90%を超えており、教育機関としての役割が大きく期待されている。

## 上記のうちで最も強く求めるもの（平成22年）

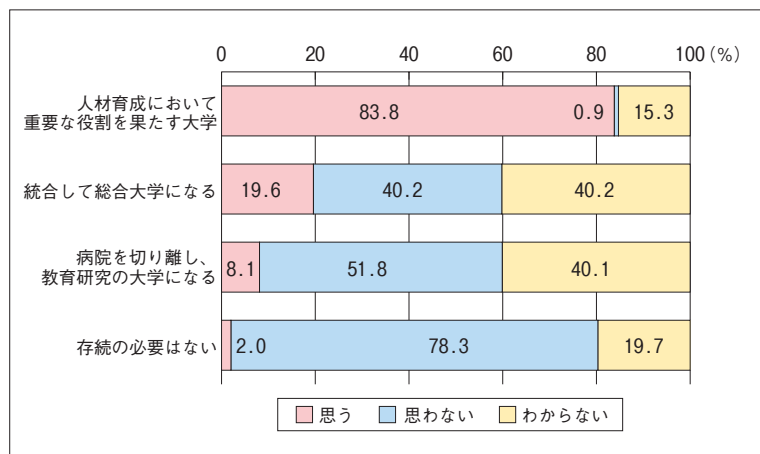


## 上記のうちで最も強く求めるもの（平成17年）

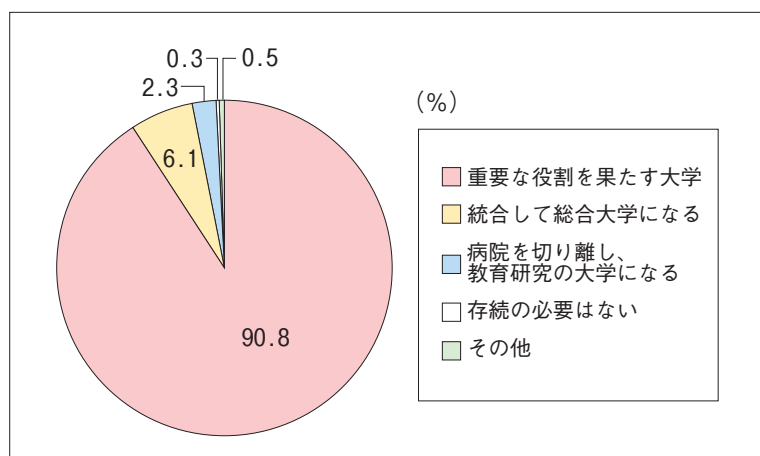


多くの役割が期待されるなかで最も求めるものとして多く挙げられたのは「良い医療従事者の養成」であり、第2回調査では第1回を上回る47.7%であった。次に多い「先端医療を取り入れた診療体制の充実」は20.8%で、「良い医療従事者の養成」の半分の割合であった。教育、医療、研究という主要な機能の中でも多くの人が本学に対し「信頼できる良い医療従事者を輩出してほしい」という教育機関としての機能に大きな期待をしていることがわかる。

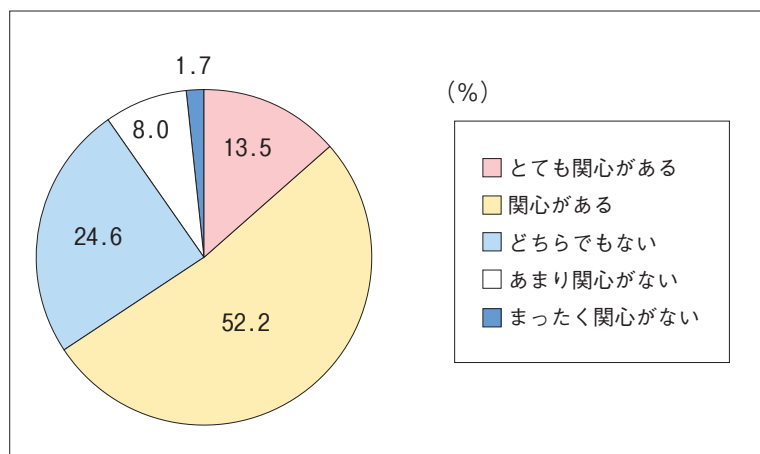
## (8) 滋賀医科大学の将来像（平成22年）



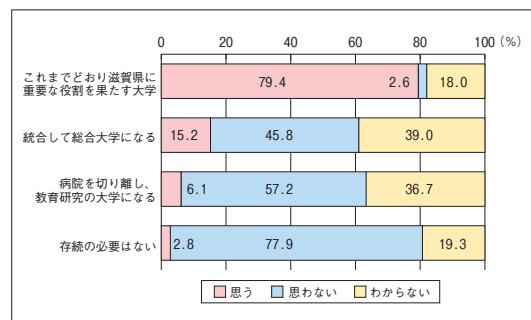
上記のうちで最も強く考えるもの（平成22年）



## (9) 滋賀医科大学の今後についての関心（平成22年）

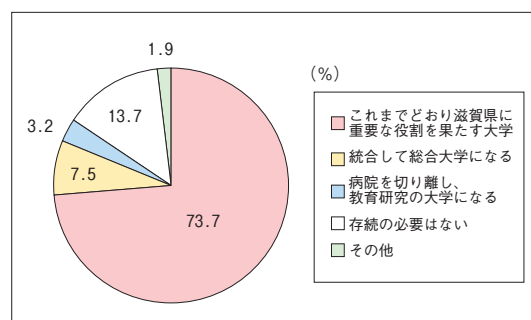


## (8) 滋賀医科大学の将来像（平成17年）



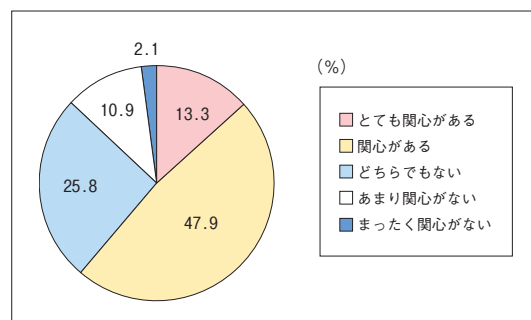
本学の将来に対し、「存続の必要はない」と考える人はわずか2.0%、「必要だ」と考える人は78.3%であることから大多数の人から本学の存続を望まれていることがわかる。「重要な役割を果たす大学」は第1回を上回る83.8%が「思う」と答えており、多くの人が本学の存続・発展を期待していると考えられる。一方、「総合大学になる」「病院と切り離し教育研究の大学になる」と考える人は、いずれも第1回調査時よりむしろ増加しているもののそう「思わない」と考える人のほうが多くなっている。

上記のうちで最も強く考えるもの（平成17年）



本学の将来像のなかで特に強く考えることとして「医師・看護師等の人材育成において重要」と回答した人が90.8%と最も多い結果であった。ここでも「(7)滋賀医科大学に求めるもの」と同様に教育機関としての役割が大きく期待されていることがわかる。

## (9) 滋賀医科大学の今後についての関心（平成17年）

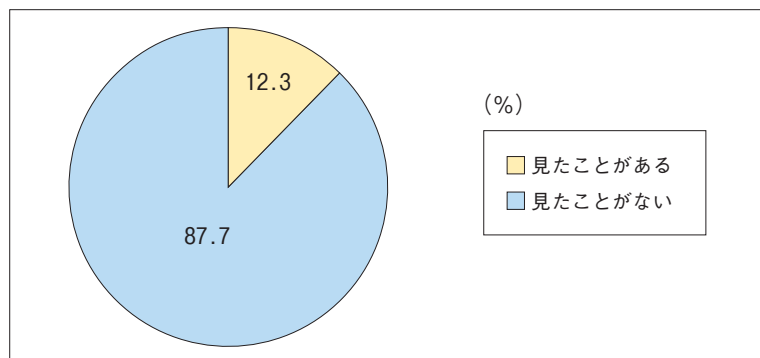


本学の今後に対して「とても関心がある」「関心がある」と答えた人が65.7%であり、第1回調査時と同様に本学の将来に関心を抱いている県民は多いといえる。

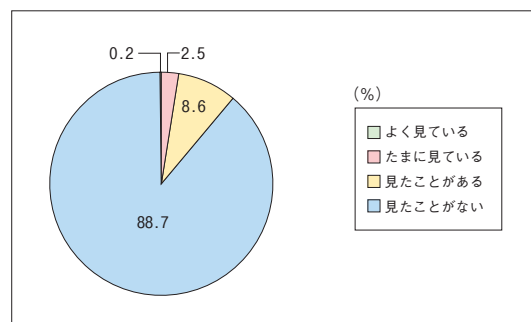


## (10) 滋賀医科大学の広報活動

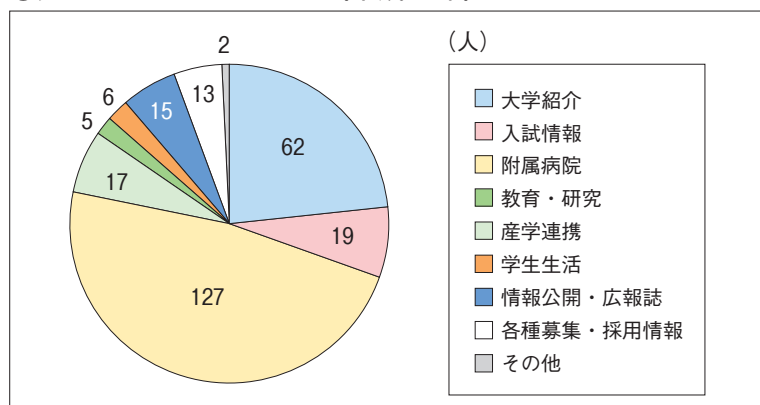
① 滋賀医科大学のホームページ(平成22年)



① 滋賀医科大学のホームページ(平成17年)

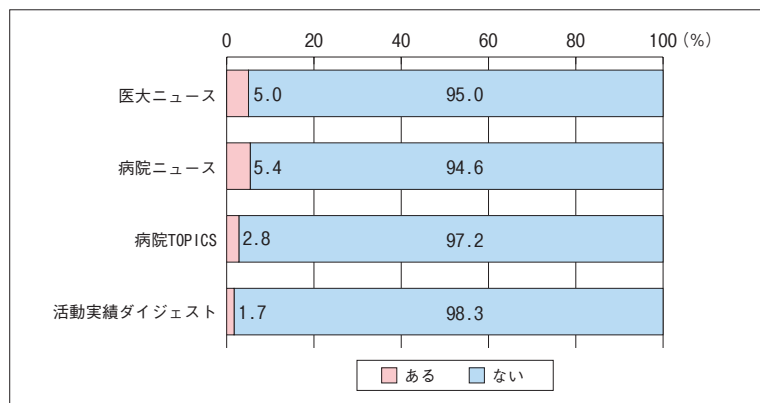


② 見たことがあるページ (平成22年)



平成17年 設問無し

③ 広報誌を見たことがあるか (平成22年)

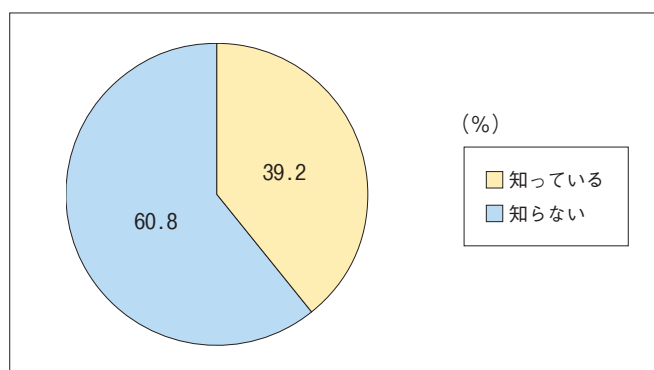


平成17年 設問無し

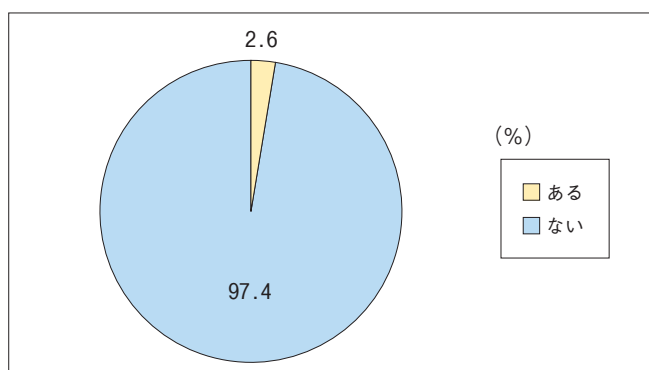
本学のホームページを「見たことがある」人は12.3%と多いとはいえない。見たことがあるページは「附属病院」のページが最も多く、次いで「大学紹介」のページであった。広報誌はいずれも「見たことがない」と回答した人が9割を超えており、広報誌が県民に周知されていないことがわかる。

## (11) 入院中の不在者投票について

① 滋賀医科大学附属病院入院中に不在者投票ができる(平成22年)



② 入院中に不在者投票をしたことがあるか (平成22年)



入院中に不在者投票ができることを「知っている」と答えた人は39.2%であったが、実際に「不在者投票をしたことがある」と答えた人はわずか2.6%であった。

## 2 主な項目間の相互関連

### (1) 居住地から見た特徴

滋賀県で働く滋賀医大卒の医師を知っている（平成17年）

居住地を大学からの距離によって3つの地域に分類した。（調査時の市町）

平成22年

近い地域：大津市 草津市 栗東市 守山市 野洲市  
湖南市

中間地域：近江八幡市 竜王町 日野町 甲賀市 東近江市  
愛荘町 彦根市 豊郷町 甲良町 多賀町

遠い地域：米原市 長浜市 高島市

平成17年

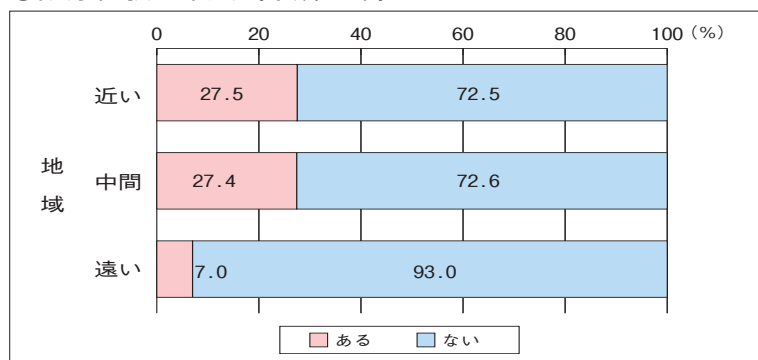
近い地域：大津市 志賀町 草津市 栗東市 守山市 野洲市  
湖南市

中間地域：近江八幡市 安土町 竜王町 日野町 甲賀市  
東近江市 能登川町 蒲生町 愛知川町 秦荘町  
彦根市 豊郷町 甲良町 多賀町

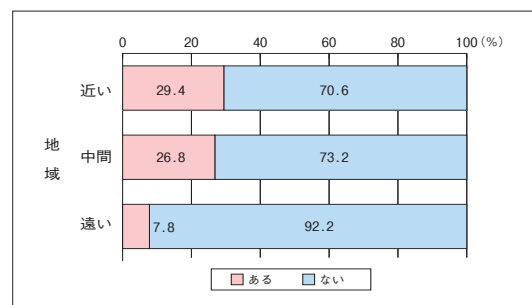
遠い地域：米原市 近江町 長浜市 浅井町 びわ町 虎姫町  
湖北町 高月町 木之本町 余呉町 西浅井町 高島市

第1回と比較すると、市町村合併による変動があるが、居住地を大学からの遠近によって3つに区分した。自由回答では、大学への交通アクセスが良くないという記載が多かったが、湖北を除けば、全県から来院者がある。

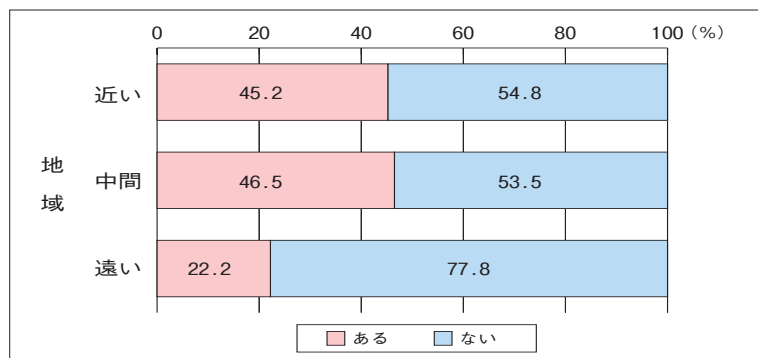
#### ①診療経験 本人（平成22年）



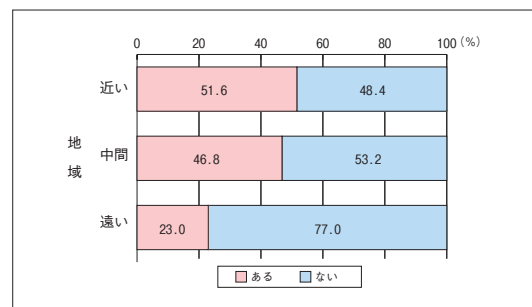
#### ①診療経験 本人（平成17年）



#### 家族（平成22年）

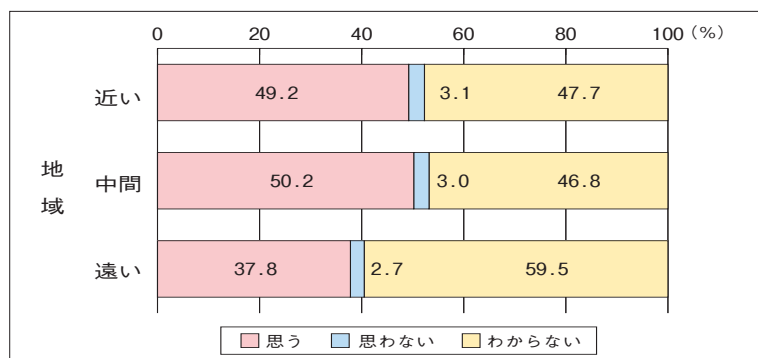


#### 家族（平成17年）

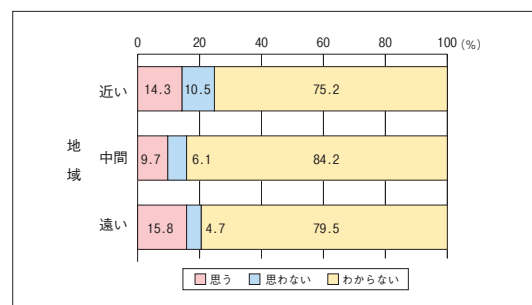


第1回と比べると第2回は、本人、家族とも近い地域と中間地域の差が小さくなっている。

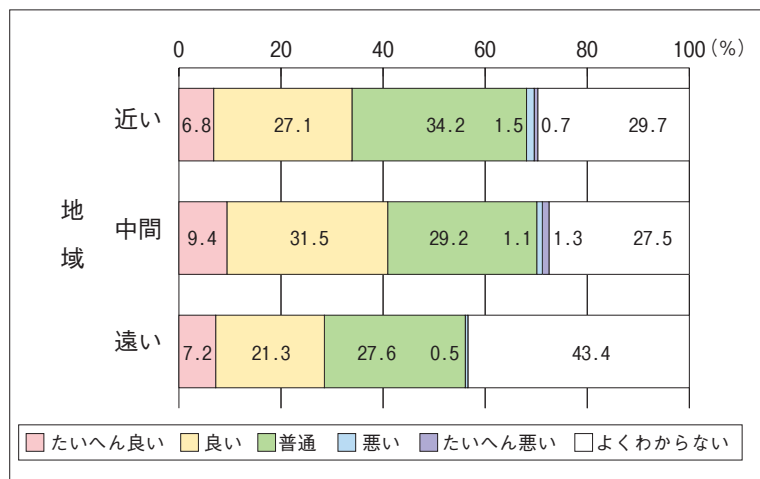
#### ②地域医療に貢献している（平成22年）



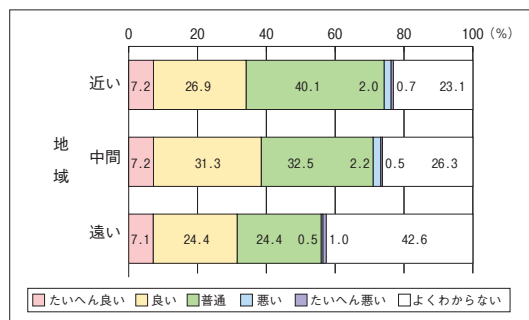
#### ②地域に密着した活動をしている（平成17年）



### ③滋賀医大に対するイメージ（平成22年）

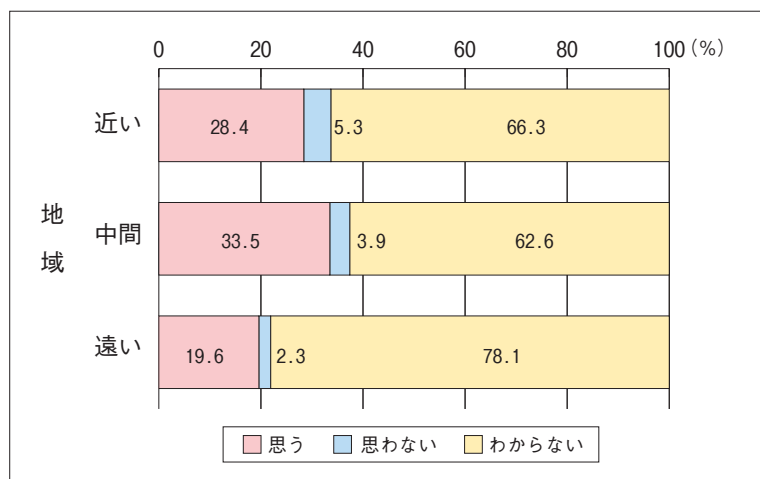


### ③滋賀医大に対するイメージ（平成17年）

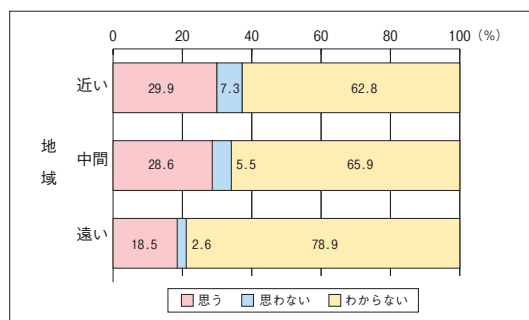


本学が地域医療に貢献しているかどうかという評価や、本学に対するイメージに地域差は小さい。湖東以南の地域の人からは平均的に認知されていることがわかる。

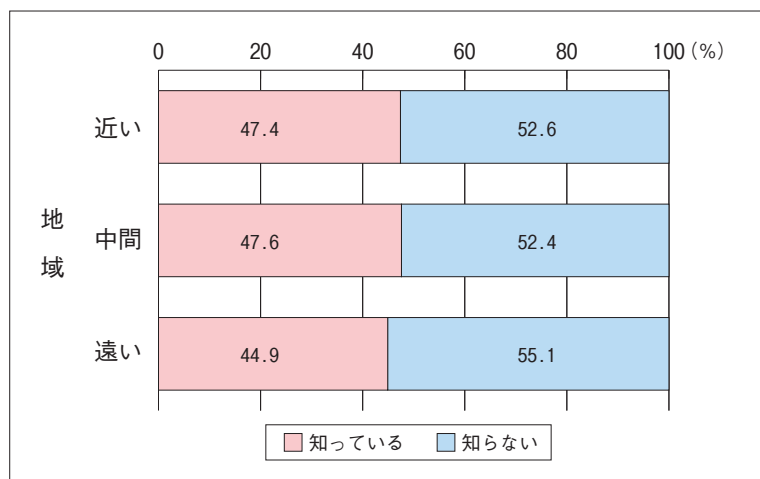
### ④医師・看護師や学生と地域の関わり 医師や看護師が親切（平成22年）



### ④医師・看護師や学生と地域の関わり 医師や看護師が親切（平成17年）



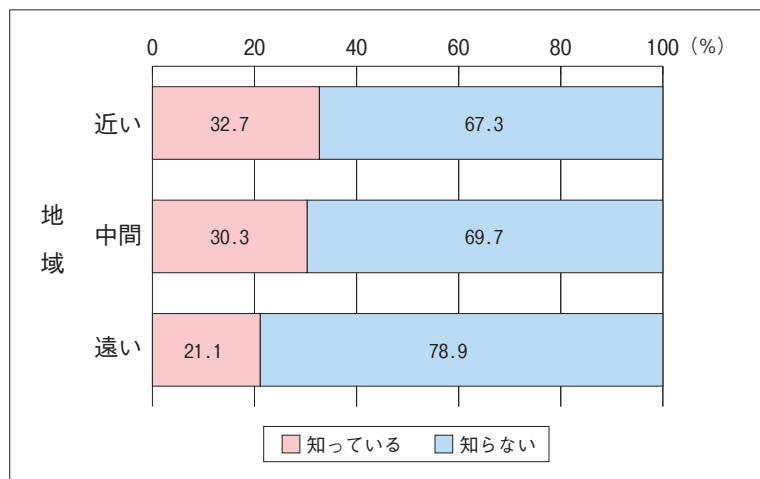
### 地域の診療所や病院での実習（平成22年）



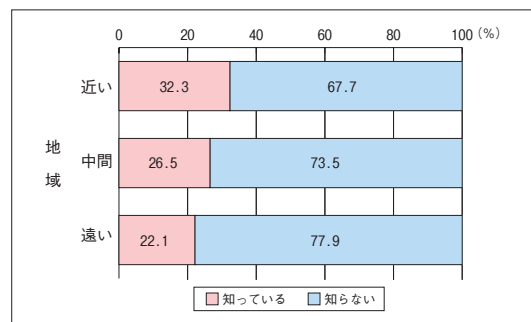
平成17年 設問無し



県内で働く滋賀医大卒の医師を知っている（平成22年）

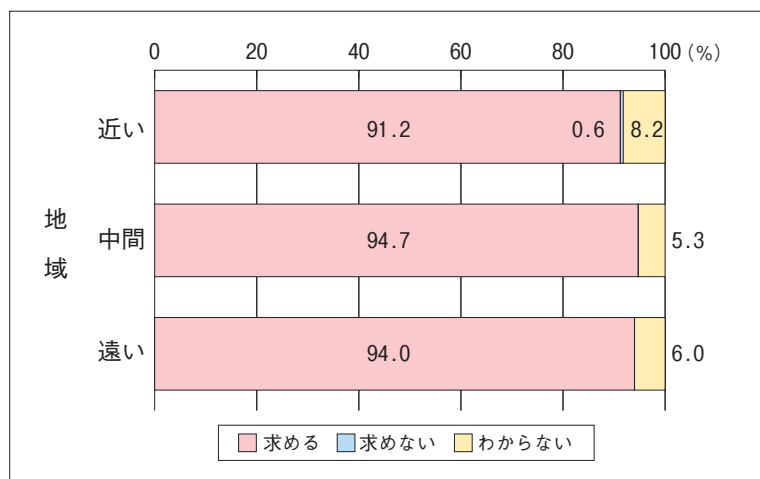


県内で働く滋賀医大卒の医師を知っている（平成17年）

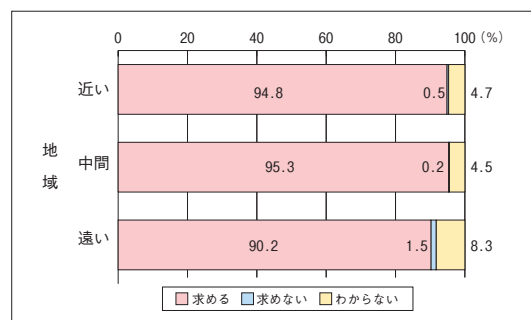


本学への認知に地域差が見られないのは、県内各地で働く本学出身の医師や看護師を知る人がいるからだろう。医学・看護学実習生についての質問は第2回で新たに尋ねたが、どの地域でも4割以上の人に知られていた。

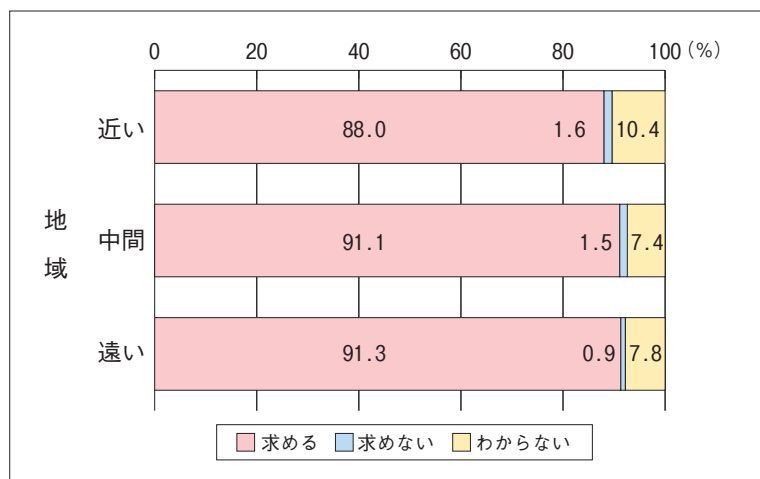
⑤滋賀医大に求めるもの  
良い医療人従事者の養成（平成22年）



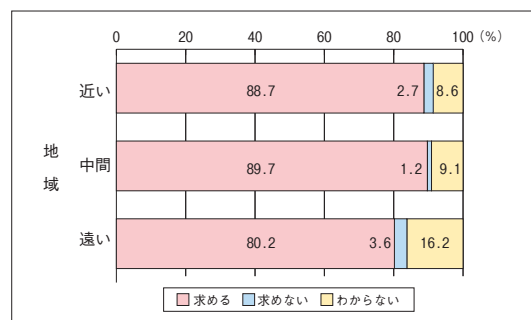
⑤滋賀医大に求めるもの  
良い医療人従事者の養成（平成17年）



診療体制の充実（平成22年）



診療体制の充実（平成17年）

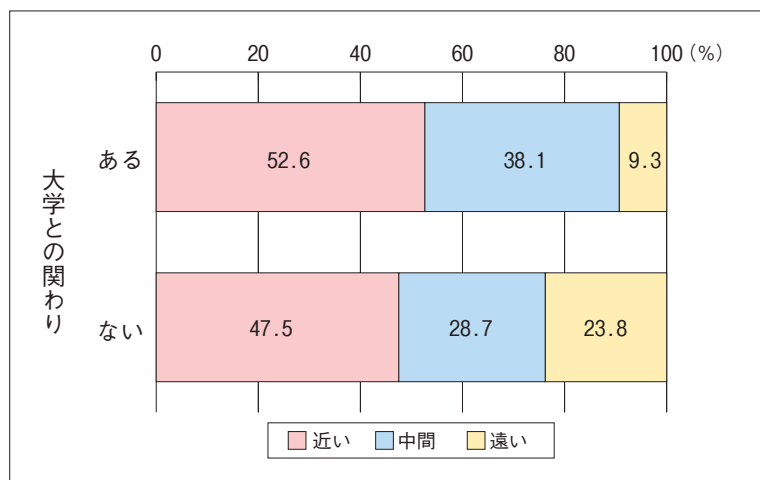


滋賀医大への期待には、地域差は見られない。

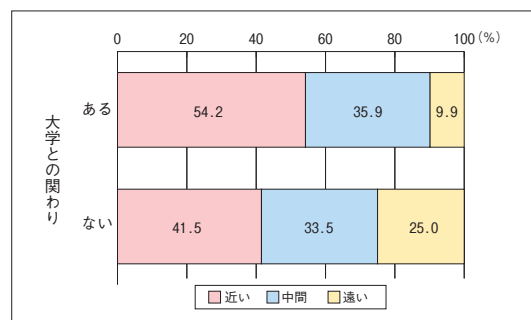
## (2) 滋賀医科大学との関わりから見た特徴

ここでいう「大学との関わり」とは、受診経験や市民講座参加など本学との接点についてたすねた7項目の回答の「ある」を1点としてその合計点をもとめたものである。その結果、1点以上の「ある」人は、54%であった。

### ①居住地（平成22年）

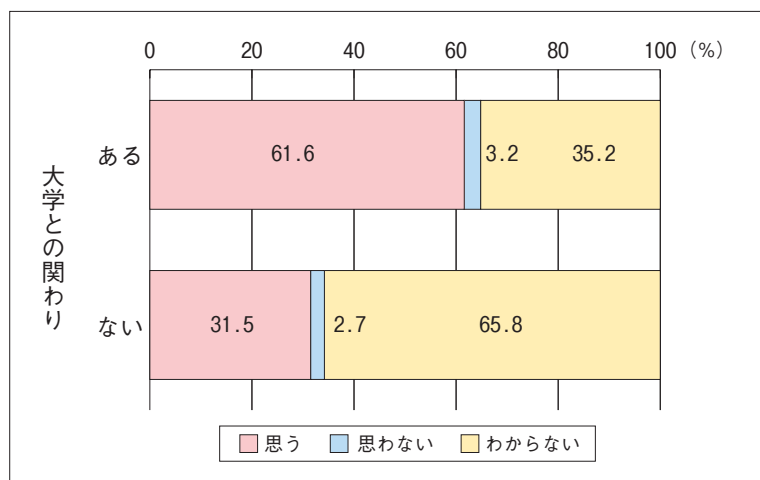


### ①居住地（平成17年）

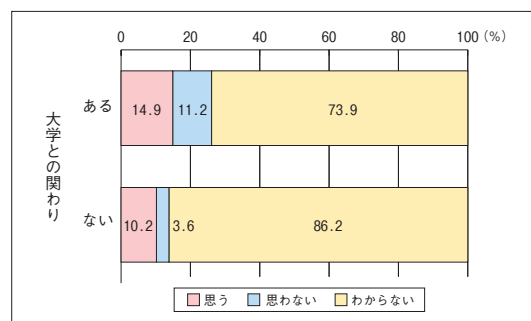


アクセスの便や医療機関の分布から、本学に近い地域よりも湖東や甲賀などの中間地域との関わりの方が強い。

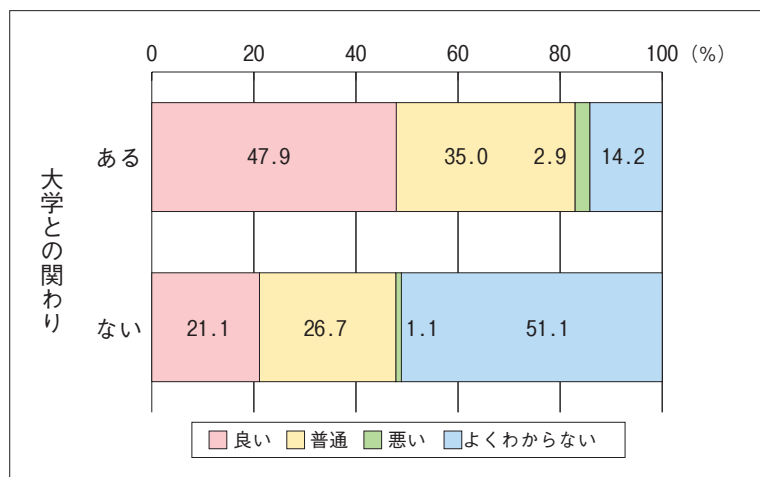
### ②大学に対する評価とイメージ 地域医療に貢献している（平成22年）



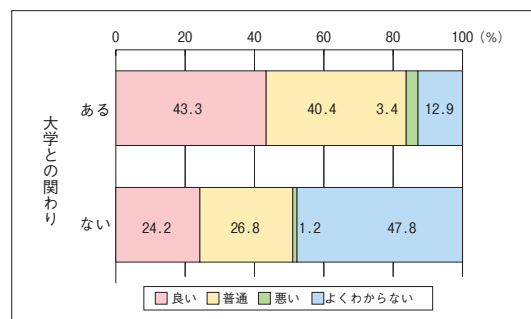
### ②大学に対する評価とイメージ 地域に密着した活動をしている（平成17年）



### 滋賀医科大学のイメージ（平成22年）



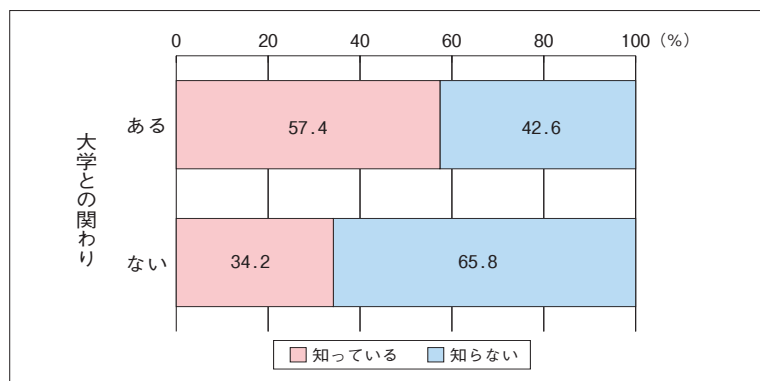
### 滋賀医科大学のイメージ（平成17年）



関わりの「ある」人に、肯定的評価や良いイメージを持つ人が多い。ただし、否定的評価や悪いイメージを持つ人の割合も、関わりの「ある」人の方が大きい。これに対して、関わりが「ない」人では「わからない」という回答が多くなる。

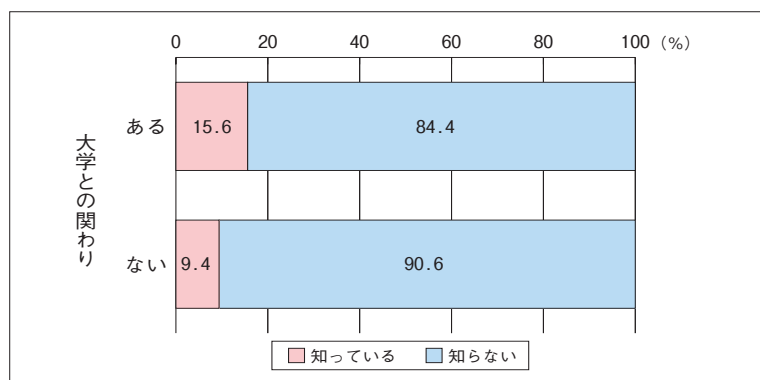
### ③学生実習の認知

#### 地域の診療所や病院での学生実習（平成22年）



平成17年 設問無し

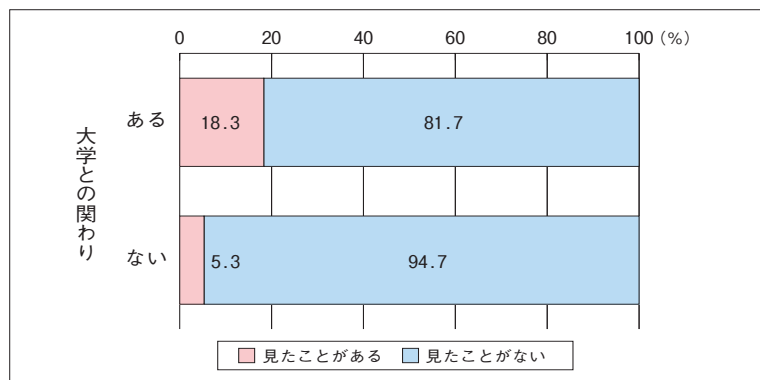
#### 福祉施設での学生実習（平成22年）



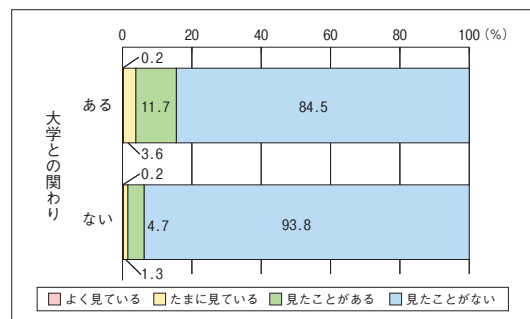
平成17年 設問無し

関わりの「ある」人では、本学の学生が学外の医療機関で臨床実習していることを知っている人が過半数を越えている。

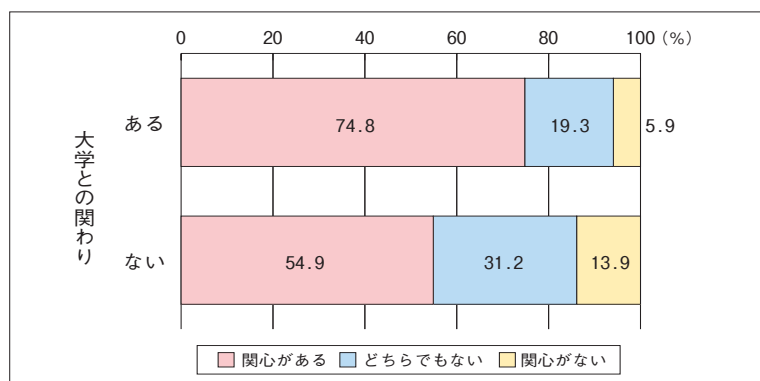
### ④滋賀医科大学に対する関心 滋賀医大のHP（平成22年）



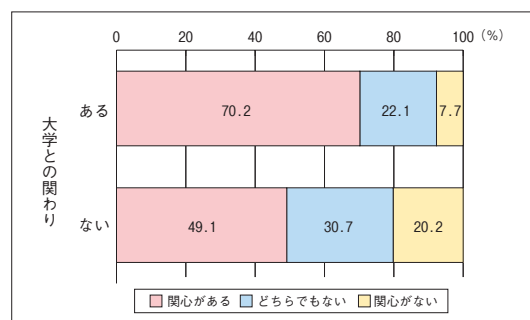
### ④滋賀医科大学に対する関心 滋賀医大のHP（平成17年）



#### 滋賀医大の今後への関心（平成22年）



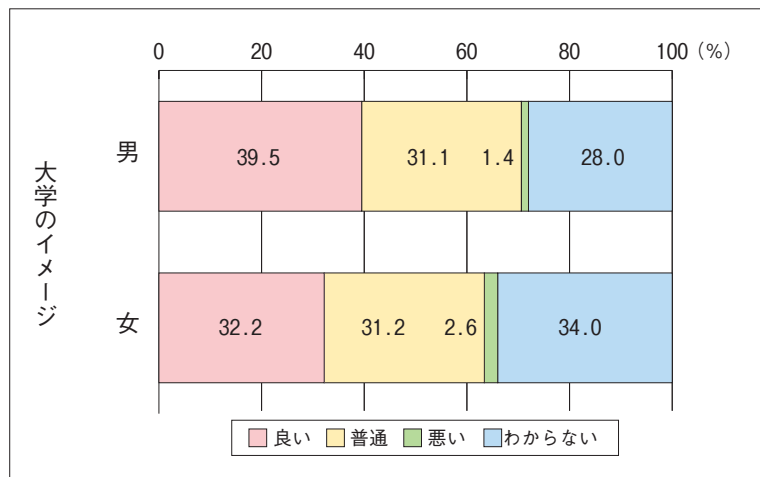
#### 滋賀医大の今後への関心（平成17年）



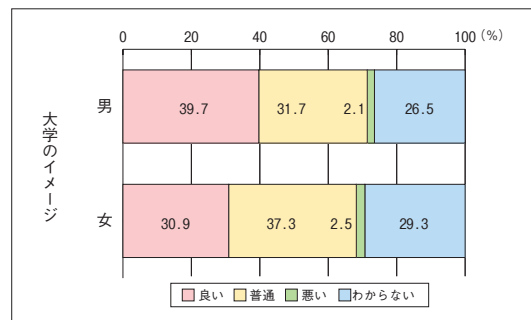
本学のHPを見たことがある人の割合は、関わりの「ある」人が「ない」人の3倍になる。本学の今後についての関心も、関わりの「ある」人の方が、「とても関心がある」「関心がある」とも割合が大きい。ただし、関わりの「ない」人でも、関心のある人の方が多い。

### (3) 滋賀医科大学に対するイメージから見た特徴

①性別（平成22年）

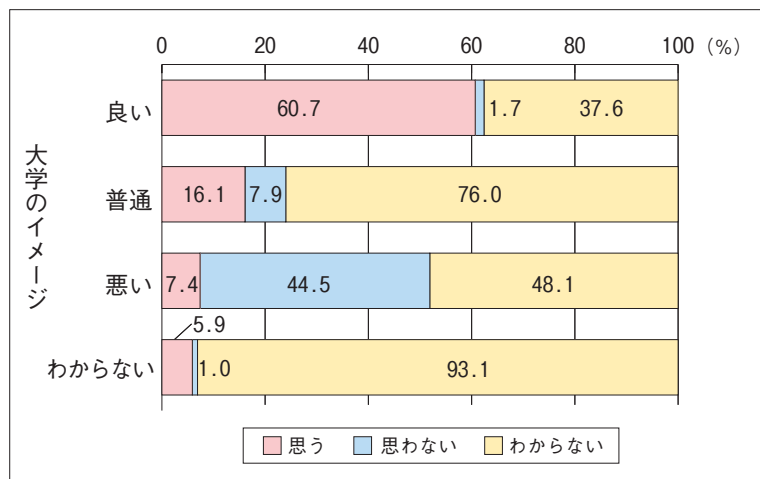


①性別（平成17年）

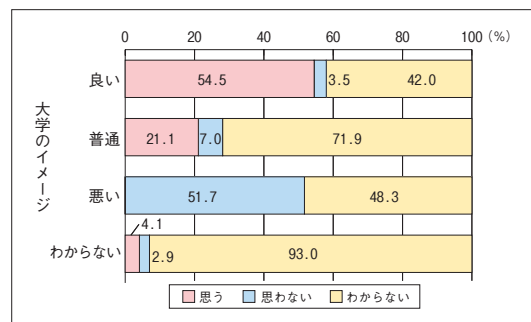


第1回と同じように、女性の方が男性よりも厳しい見方をしている。

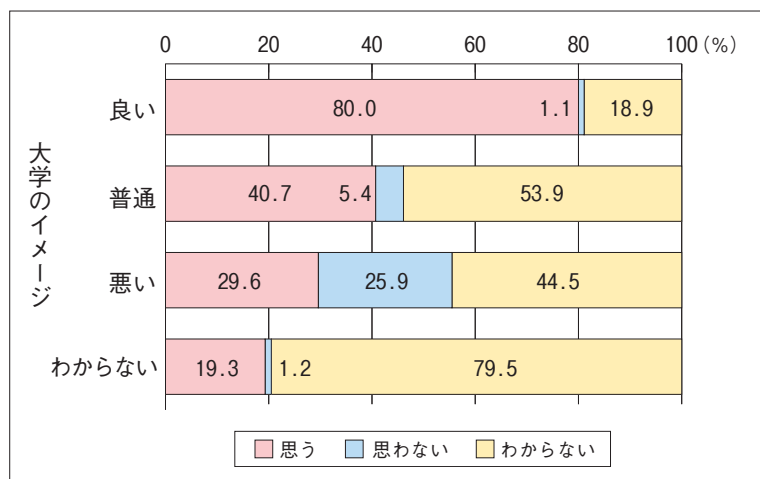
②滋賀医科大学に対する評価  
医師や看護師が親切（平成22年）



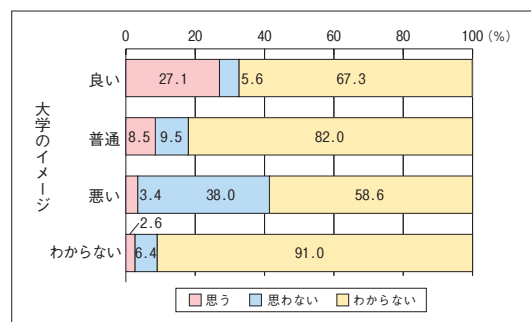
②滋賀医科大学に対する評価  
医師や看護師が親切（平成17年）



地域医療に貢献している（平成22年）

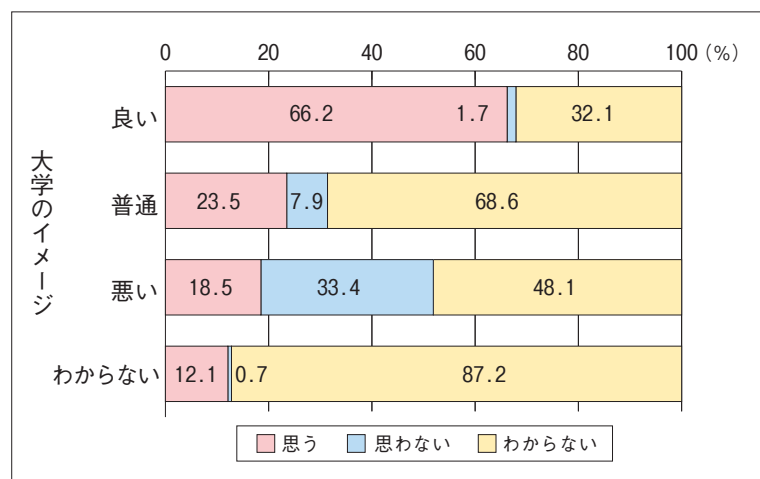


地域に密着した活動をしている（平成17年）

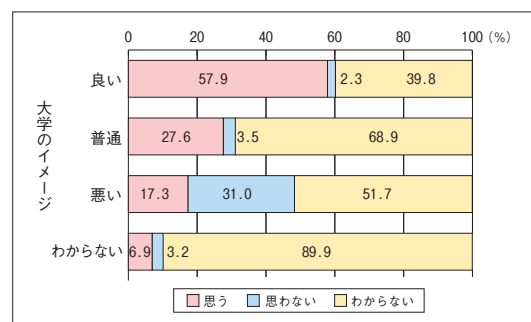




## 病院の機能が充実している（平成22年）

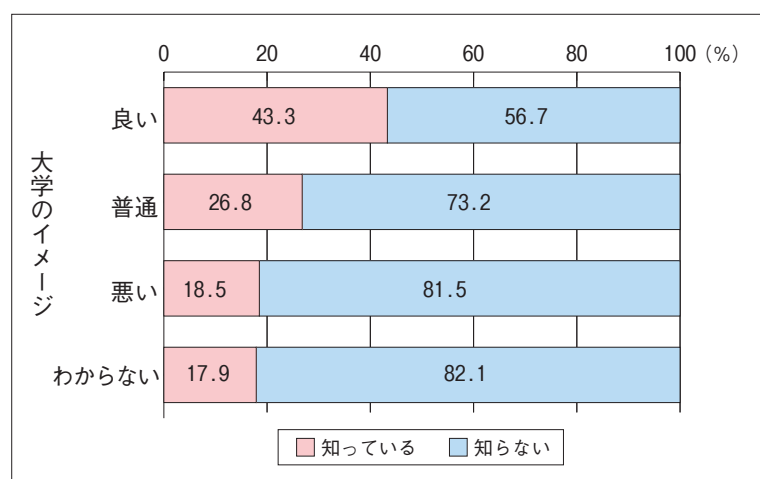


## 病院の機能が充実している（平成17年）



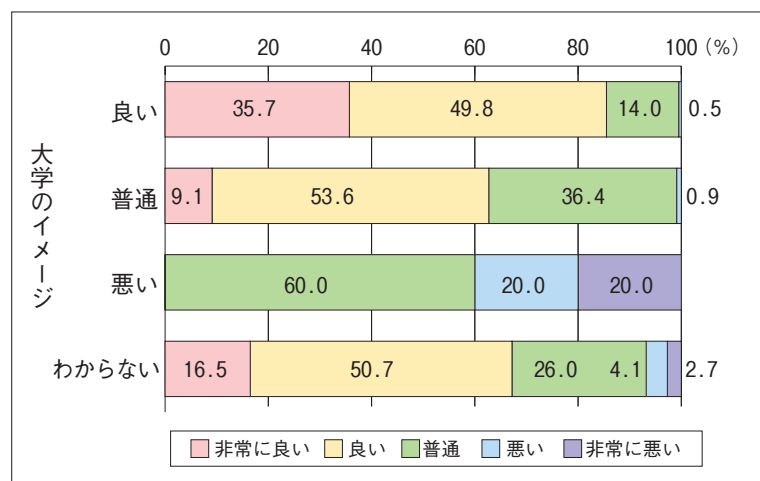
第1回、第2回ともに、評価に関する項目のなかで、もっともイメージの良い悪いに関連していたのは、「医師や看護師が親切、丁寧である」という項目であり、次が「地域医療に貢献している」であった。

## ③滋賀医科大学卒業の医師 滋賀医大卒の医師を知っている（平成22年）

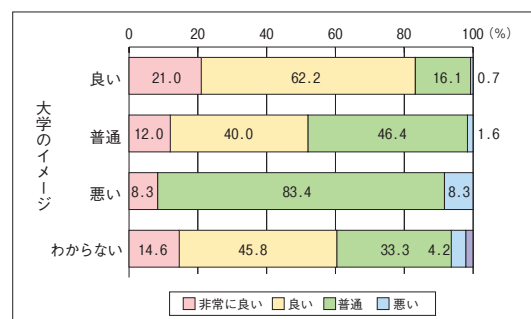


平成17年 設問無し

## 滋賀医大卒の医師のイメージ（平成22年）



## 滋賀医大卒の医師のイメージ（平成17年）



本学に対するイメージが良い人ほど本学卒の医師を知っている人の割合が高く、医師に対するイメージも良い。一方、本学のイメージが悪い人にも少数ながら、医師を知っている人がいるが、やはり医師に対するイメージが悪い。

## 県民アンケートで出された主な自由回答

### ◆自由回答について◆

今回も質問項目以外に自由な意見を書いていただく自由回答欄を設け、本学に対する意見のみならず滋賀県の医療行政についてもお聞きしたところ、回答者の4割余りの方からご意見をお寄せいただいた。特に医療行政に関するご意見が全体の24%と多く、県民の皆さんが医療に関し高い関心をお持ちであることが伺える。

本学附属病院に関しても多くのご意見があり、先進医療の実施に対し期待されていることがわかった。

次いで多かったのは、本学の教育や医療人の育成に関してであった。「患者と向き合える医療人の育成」や「卒業生が滋賀県に定着し地域の医療へ貢献すること」を望む声が多く聞かれた。

反面、情報発信については、不足とする意見が多く、更に積極的なPRが必要と考えられる。

### 地域の大学

◇大学の学生さんや医師と地域の住民がふれ合える機会が増えたら良いと思う。お忙しくてそれどころではないでしょうけど。

◇年齢に関係なく、全国にない滋賀医大だけの滋賀住民と共に本当の意味での身体、心、いろんな場所へ出向いての気楽な講座を開いて頂きたい。

◇滋賀は人口も増え、今後医療のニーズも様々となってくると思います。安心して暮らせる滋賀になるよう貢献していただきたいと思います。また地域に密着した大学を目指していただければと存じます。

◇滋賀県の医科大学として大事に見守りたいと思います。地域医療に貢献できる学生さんを育ててください。

◇寄附のことがふれられていないが、広く県民に寄附を募り、県民と共に発展をして欲しい。

◇滋賀で一番信頼できる附属病院になることを希望します。そのために、大学で技術・研究・人材養成で充実できるカリキュラムなどを組んで、いい医師が多く育成され、市民病院や民間病院の医師になって、私達一人ひとりの市民が信頼し健康に過ごしていけることを強く願います。

このアンケートを記入・参加し、滋賀医科大学に関心を持ちました。市民が参加できるような講座があれば教えてください。質問など気軽にできるといいなと思います。

### 地域の大学病院

◇滋賀県内の地域医療に貢献し、各種の病気で苦しんでおられる方々に適切な医療を提供していただきたいと思っています。

◇県内唯一の医科大学で附属病院もある事ですので、県民の信じられる大学・病院となっていきたいと思っています。今のところ大きい病気はしていませんが、70歳をこえた今、心強い病院が県内にあることはうれしいです。期待します。頑張って先端医療の病院になってくださることを願っています。

◇九州から草津市に引っ越してから、大きな病気がなく病院へ行く機会がなかったのですが、人から聞いてとても良い印象があるので病気になったら行こうと思っている病院です。

◇これから益々高齢者が増えて病院の役割が大きくなっていきますが、地域に病院がないと安心して暮らす事が出来ません。これからも、地方の病院の中心的存在としてお願いします。

◇アンケートに答えながら、地元の大学病院のことについてほとんど知らない事に気がついた。大津市民病院や大津日赤への医師の派遣は京都の大学がほとんどだと聞いている。滋賀医大の認知度を高め、地元の期待に応えていただくためにも、県内の病院へのスタッフの派遣を積極的に行うべきだと思います。

## 大学の再編・統合

---

- ◇滋賀大学と統合すべきだと思います。(経営効率化の面から)
- ◇滋賀の医療を支えるためには医科大学は必要不可欠なものであると思う。滋賀医大には薬学部がないと思うのですが、医学の総合的な大学を目指すのであれば設置すべきではないかと思う。
- ◇県下で唯一の医学部がある大学です。京都・大阪の大学と統合とならないよう頑張ってください。
- ◇総合医科大学か滋賀大学と統合

## 大学・病院の情報発信

---

- ◇入学定員を増やし、大学側が他府県に出向き積極的にPRして欲しい。
- ◇滋賀医大から発信される普段の活動等を、もっと県民の目に触れやすいよう努力していただきたい。滋賀県民として、滋賀医大および附属病院には大いに期待しています。これからも滋賀県の医療レベル向上のために頑張ってください。
- ◇医大の広報関連を全く知らない。立命館とか龍谷などは生涯学習のチラシが時々ポストで見える。
- ◇附属病院に行っても広報誌を取ることはまずない。きれいなラックに並べてあるだけな感じ。読んでもらうために、待合室のテレビに目次だけでも流すとか、記事に関連する「科」の受付に見開きで置いとくとかして、中身が見えると読むかもしれない。HP上に資料として載っているのはバックナンバーも含めて、見るのがあって有難い。
- ◇滋賀医科大学については、一般の方々はあまり詳しくは知らないと思うので、もっと積極的に広報活動を行っても良いのではないのでしょうか。
- ◇もっと積極的に取り組みについてアピールすべきである。また、もっと滋賀県民に開かれた大学にしたい。
- ◇多分、近隣在住の方はよく利用され、助かっていると思いますが、多大な税金を使っの医科大学の姿は見えにくい。発信力が弱いのかも。県とかの広報誌に医科大学コーナーのようなものもあっても良いと思う。本来は、この医科大学の役割は非常に大きいものはず。先端医療でなくとも、地道であっても、確実に県民の医療に役立つものを望みます。

## 大学の教育、医療人の育成

---

- ◇医療技術の提供により病気を治療していただくことはもちろんですが、同時に患者と真剣に向き合っ心を通う言葉がけや、理屈ばかりを言い抜くのではなく納得のいく会話が出来るような医師になっていただきたい。
- ◇小児科・産科の医師不足の報道を耳にします。滋賀医科大学では、こういった分野で貢献していこうといった気概のある医療関係者の育成に努力していただきたい。
- ◇先生方も熱心で入院も致しましたが看護師さんもやさしく親切ですとお世話になっています。医大が近く大変うれしいです。ますます良き研究をして欲しいと思っています。すばらしいお医者様が育っていただく事を願って居ります。
- ◇やはり卒業生は滋賀県内の病院で働いて欲しいと思います。婦人科や小児科のある病院・医院が少ないことも気になります。
- ◇祖父母はこれからの医学の為に、生前から献体することを決めていたので、その意志をしっかり受け取って医学生の方には勉強して欲しいと思います。県内唯一の医科大学なので、しっかりと地域に根付いて欲しいと思います。
- ◇世界的な研究も大切ですが、県民の為にきめ細やかな思いやりのある医師を育成し、地域にやさしい病院であってほしいと願います。簡単なようで難しい事ではありますが、期待しております。頑張ってください。
- ◇最先端の医療ができる医大であって欲しい。また、オンリーワンを目指す医大であって欲しいと思います。医

療行政については、各地域の救急医療体制を充実して欲しい。地方医療が疲弊しないように願っています。人材育成にも、もっと予算を使うべきだと思います。

## 大学の研究

- ◇県内唯一の大学病院として、最先端技術を取り入れた治療や難病の原因究明などをどんどんやって欲しいと思う。それらの情報をもっとアピールすれば良いと思う。
- ◇不妊治療を受けて子供を授かりました。不妊で悩んでいる方のために、一人でも多くの方のために、治療の研究や技術の進歩とすばらしい先生方の育成をお願いします。
- ◇救命医療や難病治療など町医者にはできない治療や開発を行い、一人でも多くの命を救っていただきたい。
- ◇家族に脊髄小脳変性症の者がいます。現在では治療法が確立されておらず、進行を遅らせる事しかできないということで私たち家族はこのような難病の治療法ができる事を願っています。ぜひ大学での研究をよろしくお願いします。
- ◇私は今、関節リュウマチになって毎日が大変です。原因がわからない病気らしくて痛みが毎日変わるので、原因を究明してくださいますことをお願いいたします。指が不自由で読みづらい字ですみません。

## 大学と地域の連携

- ◇近隣の意欲ある高校生が医学部に入学できるよう、高校ともっと連携をとっていただき入学できるようにしてやって欲しい。
- ◇滋賀地域の医療分野での指導的役割を果たしてほしい。
- ◇一般企業との交流を増やし、新しい技術開発の導入も考えてください。
- ◇産・官・学でのコンソーシアムにて介護予防プログラムの実践を県内で実施して欲しい。

## 附属病院へのアクセス

- ◇色々な方から滋賀医大の事は聞いています（大変良い）。でも、自宅から遠いので診察に行けない。
- ◇南草津駅より滋賀医大・立命館等バスの便があり便利だが、一方JR草津駅からは、滋賀医大・松下電器・立命館・県立福祉施設等、京滋バイパス経由の直行バスが運行しておらず、大変不便である。滋賀医大からも各交通機関に運動して交通の便を考慮していただくようお願いします。
- ◇交通の便が悪い、高い、シャトルバスがあればいい。
- ◇立地が良くないので使ったことがない。バスで行くのが面倒だし高い（車の運転ができない）。病院通院者はバス代が安くなる免除などの配慮があると良い。夜、周辺が暗くて怖い。
- ◇医療は受診したい人にとって平等である事が望ましいが、なかなか難しいと思っている。交通関係等考えても滋賀医科大学を受診するには滋賀の北部の者は大変不便である。
- ◇交通の便が悪い所にあることが少しネックですが、県内では信頼度が高い良い病院だと思います。
- ◇交通の便がよくなったら良いと思う。（医大まで行くのに遠い地区もある）たとえばその地域から「医大直行バス」とかが出ていたら車が運転出来ない方々が乗って行けて便利になると思う。

## 附属病院内の環境

- ◇病院内が迷路のようでわかりにくい。待ち時間が長い。立地が不便。遠い。病院の玄関を広く明るくして欲しい。入院患者の付添に多額の駐車料金を払いました。改善してください。
- ◇滋賀医科大学は文化ゾーンにあって交通の面では少々不便ですが、環境は病気を治すのに適していると思います。しかし、築36年という事で建物が老朽化しています。部分的に改修されたりしていますが、守山の病院施設に比べて古くさい感じがします。



- ◇高齢者になりいくつもの病気を持っても医療費入院した場合の個室代等の費用等の心配が有り。安い個室を各病院に増やして欲しい。
- ◇遠くから入院していると患者の洗濯物が大変です。コインランドリーのように洗濯が終わったら、たたんで袋に入れてくれる人がいれば、又病院まで持って来てくれるとかすればよいのでは。
- ◇病院の受付に「耳マーク」を設置してほしい。
- ◇院内がきれいで、案内人もいてとても良かった。
- ◇身体障害者用の駐車収容台数の増加を希望します。

## 附属病院の診療体制

---

- ◇大変良い病院で、患者にも信頼されているとは思いますが、やはり予約をしていただいても、かなり診療時間がずれこむと聞きます。そのへんを改善していただければと思います。
- ◇休日診療では、内科や外科以外の診療を充実させてほしい。(内科や外科なら多くの県内の病院が対応できるから)
- ◇予約を取って受診なのに待ち時間が長すぎる。採血の結果が何かが書いてあるのかわからない。記号ばかりで一般人には理解出来ない。
- ◇名前を呼ばれたとき聞こえないので、「無線震動呼出器」を取り入れてほしい。合図でしらせてくれるので便利。

## 病院職員の対応

---

- ◇主人が医大病院で直腸がんの手術を受けた際に、退院後1年に主治医の先生がその後の状況について電話をくださった事には大変ありがたく心強く思われた。ありがとうございました。
- ◇医師にしっかり質問しないと十分答えてもらえないことも患者として不満もあります。こんな事ぐらい分かっているだろうと思う事も説明してほしいと思います。
- ◇私の家族は数名たいへんお世話になっています。患者、家族にとっては信頼し全てをまかせるのが滋賀医大の先生や看護師さんです。滋賀県に住む者にとっての滋賀医大に寄せる信頼感や期待感は非常に大きいと思います。長く病気を患う者にとっては、担当医や看護師さんがすぐにかわってしまうのは、たいへん不安に感じます。また、入院中の先生や看護師さんの言葉に励まされたことも悲しい気持ちになったこともあります。県民にとっての最大の心のより所であるということを念頭において接していただけるとありがたいです。
- ◇滋賀医大へは夏から外来に通院していますが、外来の待合いに設置している意見箱の内容が全く変化がみられません。事務方のお仕事だと思われそうですが、色んな意見に対する答えを載せていくべきではないでしょうか。反映されない意見箱なら設置する意味がありません。
- ◇診察を待っている場合、診察順番がきて受付員が呼び出しをかけられますが、周囲がざわついている中、呼出声が小さい。スピーカーなどを使用して欲しい。混雑して座席がなく、遠くの空席を利用する場合があるから。
- ◇大きくなればなるほど電話の対応が大切です。やさしい言葉遣い、サービス精神が県民の関心度と愛される大学・病院になると思います。応援しております。

## 附属病院の医療

---

- ◇大きな病気をした際に県外に出ずに治療ができるように、第一線の大学病院を運営していただきたい。
- ◇滋賀県の医療推進を先頭きって進めてほしい。全国でも有名な分野を一つでもいいのでつくってほしい。もしあるのなら、もっと公に知らせていく。
- ◇膠原病などの難病について専門科をふやしてもっと知識のある先生が対応できるようになればうれしいです。
- ◇先端の医療器具、技術、優秀な医師・看護師を導入・育成をしてほしいです。
- ◇今後も滋賀県下の最先端の医療機関としての役割を担っていただきたいと思います。安心して滋賀に住めると



いう、大学病院であってほしいです。

## 滋賀県の医療行政

- ◇現在、社会問題となっている事のひとつに医師不足があります。病気の人達はすぐに総合病院に行けずに、先ず開業医に診てもらい、そこから紹介状を持って総合病院に行かねばならないと聞いています。いずれも医師不足・施設の不足が原因ではないかと思います。医師不足の原因は何なのか詳しくは知りませんが、滋賀医大や県の医療行政が、人々が安心していつでも技術の高い内容の良い病院で治療・診察が受けられるよう滋賀医大が大きな力を発揮し、提案して欲しいと思います。
- ◇滋賀県地域の先端医療を担うのも大事と思うが、それだけでなく、滋賀県内に開業する医師のレベルアップを図る。また、開業医との密な連絡により、良く耳にするたらい回し等のないようになりたい。
- ◇我県の医療行政は、特に進んでいるとは申し上げられません。そこで早急に取り組んでいただきたい分野では、緊急医療（ドクターヘリの導入）体制の整備を求めます。過疎地、農山林部周辺部の医療確保といった点から、ぜひ取り組んでいただきたい。
- ◇昨今、医師不足がどの地域の病院においても問題になっているが、過酷な労働に見合わない報酬では医師離れが起きるのもわかる気がする。我々の貴重な税金をもっと医療行政に注ぎ込まれ、医師たちが純粋に、安心して研究・発展に傾注できればと切に思う。
- ◇医療費の負担をもう少し軽くして欲しいです。病気を治すのも病院の役割かもしれませんが、病気を予防する方法を周知することも、役割の1つに加え、発展させていって欲しいと思います。今後の発展をお祈りいたします。
- ◇滋賀県の医療行政の実態は、全国的に低レベルにあると思う。地域格差のないよう、どこに住んでいても充実した医療が受けられるよう、不安のない医療体制を求める。
- ◇近隣の県に比べて産婦人科、小児科が少ない様に感じます。全国的な問題ですが、やはり子育てしていく上で不安で切り離せない問題なので、少しでも良い方向に改善される事を切に願います。
- ◇医者は毎年育っているのに地域の病院にその姿がないのは何故か、国の制度に問題があるのならもっと大学として県民に問題提起するなどの行動を起こしてほしい。
- ◇地域の三次救急をになう病院としての期待は大きいです。それぞれの診療所、病院、大学病院がうまく連携し、役割分担することで、必要な人が必要な医療を受けられることを願います。
- ◇滋賀県の医師数が不足しているとの報道がありましたので、卒業生が県内で活躍できるような体制を考えてもらいたい。
- ◇地域医療、特に都市部にかたよった医療でなく農村部の僻地医療行政に力を入れてほしい。
- ◇県内唯一の大学病院として、いざという時の砦として必要不可欠な存在と思っている。最近は開業医がどんどん増えているように感じられるが（私の周囲で）、コンビニのような病院は要らない。本当に医療を必要とする時に適確で患者に親身になってくれる医者であって欲しい。今通っている県立病院で、良い医者はすぐにいなくなってしまい、だんだん質が落ちているのを痛切に感じている。
- ◇滋賀医大に若い先生が多く、高度な先端医療に取り組んでいても、専門性や確実性に関して疑問を抱くことがある。地域の病院の医師不足がいわれる中、県全体の医療レベルを向上する上で医大卒業の若い医師と地域の病院との交流（地域の病院での活動）等が、より必要と思われる。
- ◇滋賀県はこのまま人口が増え続けてゆくと、びわ湖が救急搬送の障害になると思われます。水上やヘリコプターなどの搬送網を検討していただきたい。

## ま と め

平成17年度に実施した第1回県民アンケートから今回の平成22年度第2回県民アンケートまでの5年間に、日本の医療を取り巻く環境は大きく変化した。たとえば、新しい研修医制度の実施にともなって地方の公立病院では医師不足が顕著になり、医療崩壊という言葉がメディアを賑わせた。いっぽう滋賀医科大学では、この5年間に診療面における地域連携だけでなく、「患者宅訪問実習」や「里親による学生支援」など教育面からも地域と連携する新しい教育プログラムを試みてきた。このような本学の内外で生じた変化がアンケート結果にどのように反映しているか、第1回アンケートに比較して本学に対する県民の見方に変化があるのかどうかといったことが、第2回アンケートに取り組むに当たっての関心事であった。

本学のイメージや期待に大きな変化がなかった。開学以来30数年が過ぎ 県民のなかに一定の滋賀医科大学像―それも幸いなことに良いイメージが定着していることがわかる。調査に当たって滋賀県を始め、全県下の自治体から協力を得られたこと、5年前よりもさらに高い回収率を得ることができたことも滋賀医科大学に対する期待を裏付けていると感じる。

県民と滋賀医科大学との関わりは、第1回アンケートと同じく付属病院への本人や家族の受診をきっかけとしており、受診経験のある人ほど大学へのイメージが良いという結果が出ている。それに加えて、本学を卒業して地域で働く医師や看護師を知っている人がわずかではあるが増加しており、本学の出身者を知っている人ほど本学への好感度が高くなる。地域別でみると、第1回アンケート時よりも湖東や甲賀など大学から少し離れた中距離地域との関わりが強くなっていて、好意的な回答の割合が、むしろ近い地域よりも高くなっている。第2回アンケートでは、新たに地域の病院や施設などで実習をしている学生を知っているかどうかについて質問したが、半数近い人が「知っている」と回答している。第1回アンケートとの比較はできないが、卒業医師・看護師以上に実習学生について知られていたのは予想外であった。

本学への期待では、第1回アンケートと同じように「良い医療従事者の養成」が1位であり、その割合がさらに増えている。「診療体制の充実」がそれに続くが、新たに加えた項目である「医療行政への貢献」への期待もそれに劣らず高い。自由回答欄でも、良い医師、看護師を送り出して滋賀県の地域医療を向上させてほしいという記述が最も多かった。ただ、「地域医療に貢献しているか」という質問への肯定が半数にとどまっていた点は本学への厳しい評価として受け止めるべきであろう。広報活動に力を入れることも重要であり、ホームページの閲覧は第1回よりも増加している。しかし、日ごろより教育や診療を通して県民とのきずなを築いていくことが、地味ではあっても滋賀医科大学が滋賀県民から評価されるための基本であることを第2回アンケートは改めて気づかせてくれた。

(県民アンケートワーキンググループ委員長 平 英美)

# アンケートの結果を受けて

## ◆大学の取り組み◆

本学では、「地域に支えられ世界に挑戦する大学」をモットーに大学創りを進めてきましたが、地域医療に貢献する医療人の輩出が重要な使命であります。医学科では、この数年間17名の定員増（10年時限）が図られました。入学選抜においては地域枠を設定し、地域医療に携わる人材の確保を行っています。また、文部科学省から「地域里親」制度の採択を受け、入学時から滋賀県の魅力や地域医療の意義と重要性を学ぶ教育プログラムを実施してきましたが、これを今後も継続いたします。医学科・看護学科の学部教育と大学院教育においては、高い倫理性やコミュニケーション能力を培い、全人的医療教育を推し進めるカリキュラムを構築しています。23年度から研究医養成のため2名の定員増が行われますので、そのための特別教育プログラムを実施します。看護学科においては保健師や助産師の教育課程を見直し、有能な人材の育成に努めます。

研究については、神経難病、サルを用いた再生医療やインフルエンザ感染、MRの応用、生活習慣病、癌治療等のプロジェクト研究を推し進めています。基礎医学と臨床医学の融合を図る研究領域を開発し支援していきます。研究成果につきましては、皆様に積極的に広報して参ります。

高大連携、小中校への出前授業、公開講座等を積極的に行い、地域貢献できるように努力していきますので、ご支援のほど宜しくお願いいたします。

（理事（教育等担当） 服部 隆則）

## ◆附属病院の取り組み◆

今回のアンケート調査で、最も特徴的な滋賀医科大学附属病院の評価として“地域医療への貢献”が上げられました。平成17年時の調査では17%でありましたが、5年後の今回は47.6%まで上昇しました。地域医療への貢献は滋賀医科大学の基盤となる運営目標であり、このことが県民の皆様に徐々に認識されてきたといえます。しかし、一方で本院がどのような高度医療、先進医療、体に優しい医療（低侵襲医療）を進めているか、また病院再開発に伴い高度小児病棟、母子・女性診療病棟や内科・外科が統合した診療連携体制で医療を行っているなど、本学独自の多くの新しい取り組みがほとんど県民の皆様に知られていないことを改めて認識させられました。

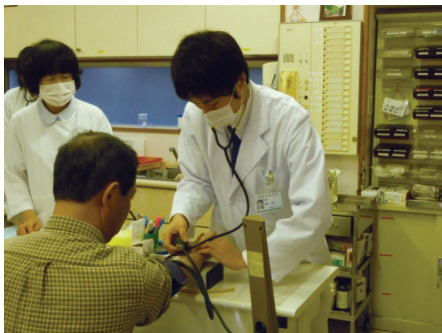
滋賀医科大学附属病院は開設され32年が経過し、大きく発展しています。特に、循環器疾患の予防をめざした診療や予防研究、更に不整脈治療、心筋梗塞や大動脈瘤破裂などの心臓血管外科手術でも大きな成果が上がっています。更に、近年“がん治療”の高度化を目指した全学的取り組みがすすみ、特徴あるがんの先進医療が大きく発展しています。しかも、滋賀県における医療崩壊を防ぐために優秀な医師を養成し、医師派遣を含む地域医療支援に大きく貢献しています。その結果、国立大学附属病院の中でも機能面、経営面、教育・研修面、救急医療への貢献でもトップクラスの位置にいると評価されています。今後は、職員一丸となって、県民の皆様の健康増進、疾病の予防や治療の向上に向けてより一層の努力をするとともに、その内容をお届けする広報活動の抜本的改革を致します。

（理事（医療等担当・病院長） 柏木 厚典）





基礎研究棟・臨床研究棟



診療所実習



D病棟 屋上庭園



新手術棟での心臓手術



発行／平成23年3月  
編集／滋賀医科大学県民アンケート  
ワーキンググループ

